



文学研究科 三上 雅子

(1) 新しい世界の入り口に立つて

よつこそ、大阪市立大学へ！ みなさんはいま大学という新しい世界への入り口に立って、大いなる期待と同時に少なからず不安も抱いているのではないだろうか？ 新しい生活がうまくスタートできるだろうか？ 大学の勉学についていけるだろうか？ 友達はあるだろうか？ 4年後にちゃんと就職や進学ができるのか？ 考えれば考えるほど、不安材料は増えていくかもしれない。

でもいたずらに不安になる必要などない。大学での勉学に関していうなら、基本的に高校までの課程で学んだこと、そこで培った学習のやり方と全く異なることが要求されているわけではない。授業にきちんと出席し、ノートを取り、課題を提出し、参考文献を読み、実験をやり、インターネットで情報を収集し辞書で分からない言葉を調べる、つまりみなさんが高校で日々行ってきた「勉強」をこれからも続けていけばよいのだ。

# アン ロゾ Un roseau

総合教育科目ガイドブック

No. 14

タイトル“Un roseau (アン ロゾ)”  
—— 一本の葦 —— について

B.Pascal (1623 - 1662) は、一人一人の人間の存在を一本の葦に例えました。葦は河岸や湖岸などの水辺に生える、ススキに似た植物です。その存在は真にはかなく、人も同様で、その存在はきわめてはかないものであると...。しかし、Pascalは言うのです。

L'homme n'est qu'un roseau, le plus faible de la nature, mais c'est un roseau pensant.  
(ロム・ネ・カン・ロゾ、ル・ブリユ・フェーブル・ドゥ・ラ・ナトゥール、メ・セタン・ロゾ・パンサン)

—— 人は一本の葦に過ぎない。自然界でもっとも弱いものだ。しかしそれは考える葦だ。 ——

人間は水辺の一本の葦のようにはかない存在ではあるのだが、考える(思考する、思想する)という行為によって有形の現象の世界(形而下の世界)のみならず、その奥にある広い広い世界(形而上の世界)を知ることができる存在なのだ。  
Un roseauとは「あなた」のことなのです。



なぜ猫は  
かわいいのか？

## 行動を伴う思考力

「問いを立てて解こう」

大学教育研究センター 渡邊 席子

大学とは何をするとこころなのか。学ぶ場であり、かつ自由度が高いというのはなんとなくわかるけれど何がどう自由なの？と思っている人々に伝えたいことがある。それは、知的に有意義なことをしようと思えばいくらでもできる、何を有意義と思うかは人それぞれでいい、その有意義なことを見出し為すための時間と自由を享受できる場所が大学である、ということだ。

1. **思考実験 第一段階/問いを立ててみよう**  
では、知的に有意義なこととは何だろうか。ここからは手始めに、次のような思考実験をやってみよう。

「なぜ は なのか？」

問いたい事柄をもったうえで自ら問いを立てることが、知的に有意義な時間の過ごし方のスタート地点である。話を進めるべく、今回は仮に、

「なぜ猫はかわいいのか？」

との問いを立ててみる。猫をこよなく愛する私にとってこの問いは、いまだ全貌を掌握しきれないほどに深



## (2) 大学での学び

では、大学での学びは高校の単なる延長なのだろうか？ 勿論そんなはずはない。私の所属する文学部では、新入生に大学での教育・学びのあり方を体得してもらうために「文学部基礎演習」(通称、ガチ演)という科目を設けている。大学での学びの本質について、その科目の「シラバス」(授業の内容・到達目標・成績評価の方法を記載したもので以下のように説明されている。簡潔でわかりやすい文章なので、ちよつと引用してみよう)。

大学における教育とは、ただ知識を習得するだけではなく、さまざまな講義や演習科目を通して、自らの問題意識を持ち、私的探求を行う姿勢や、情報を収集し吟味する力、論理的かつ柔軟な思考力を身につけるとともに、自らの考えを明確に第三者に伝え、自らも他者の主張を正しく理解するといったコミュニケーション能力の向上を目指すものである。

ここで特に重要なのは、「自らの問題意識を持ち、私的探求を行う」、「自らの考えを明確に第三者に伝え、自らも他者の主張を正しく理解する」という2つの点だ。

## (3) 自分の問題意識

高校では学習の対象・目標は基本的にあらかじめ定められている。それに対して大学での学びの出発点は、あなた自身の問題意識、あなた自身が立てた問いだ。受験する学部を決定した段階で、すでにあなたは自分の興味・適性・将来の進路など、自分なりの問題意識・課題に応じた選択をしている。これからの大学生活でも、絶えず問題意識・

知的探究心を研ぎ澄ましていってほしい。授業で扱われた事項だけでなく、自分の身の回りの出来事に対しても「なぜだろう、なぜこうなったのだろう、これからどうなるのだろう」と問いかけてみよう。社会現象であつてもいいし、宇宙の深遠な謎であつてもAKB48であつてもかまわない。

あなたを取り巻くすべてのことが、学問研究の対象となりうるのだ。与えられた課題をこなすのみではなく、授業で習得したスキルを用いて大きな視点から理論的に物事を考え、自分自身で立てた問いの答えを探していくこと、これが大学における学びの基本である。もしかしたら問いの答えは4年間では見つからないかもしれない、それならさらに学び続けていけばよい。問うことは大学生活にとどまらない、人間の一生にわたつて続けられていく営みのだから。

## (4) 他者と出会う

大学では、年齢や出身地域だけではなく、時には使う言語や国籍も異なる人たちが机を並べて学んでいる。これは、比較的限定された地域からのほぼ同年代の人たちで構成されていた高校とは、大きく異なる点ではないだろうか？「自分の問題意識を持つ」とならんで大学でみなさんに経験してほしいもの2つの学びは、「自分とは違う環境や状況にいる人たち自分とは異なる意見を持っている人たち他者」と出会う、ということだ。

授業やクラブ、サークル、同好会においてみなさんは、自分とは性別や出身地域、言語、趣味、ライフスタイル、意見が違つた皆さんの人々に出会うだろう。そこでの出会いは、自明のこと、当たり前のことと考えていた自分の環境・ものの考え方を見つ

く有意味な問いである。しばし、この問いについての有象無象につきあつていただければ幸いである。

## 2. 思考実験 第二段階/問いに対する答えを見つけよう

さあ、問いは立った。では、この問いに対する答えをひとつ繰り出してみよう。

猫を観察すると、さまざまなかわいい要素に気付く。渦巻き、縞々、ぶち等々バリエーション豊富な被毛がかわいらしくも芸術的なのは言うまでもない。もふもふした手触りは最高である。宝石と見まごうほど美しく神秘的な双眸も捨てがたい。むふんとした口元、ぶにぶにの肉球、意外とたぶたぶしているおなか、つやつやのしっぽなど、当然のことながら各パーツもすべてかわいい。つまりここまでのことをまとめると、「なぜ猫はかわいのか?」との問いに対する答えは、「猫の姿かたちがかわいいから」ということになる。

## 3. 思考実験 第三段階/それって本当?(突っ込み)

友達同士のおしゃべりの場であれば、第二段階までで十分である。それ以上真顔で突っ込みを入れると場を微妙な雰囲気させるかもしれないので、ほどほどにしておいた方がいいだろう。しかし、大学における知的活動においては、問いを立て、あれこれ奮闘して答えを得、その答えに「本当か?」「ひたすら突っ込みを入れる地道な作業を繰り返すことが肝心である。というわけで早速、「なぜ猫はかわいのか?」「猫の姿かたちがかわいから」

に突っ込みを入れてみよう。色や模様がかわい、美しい瞳がかわい、各パーツがそれぞれかわい、確かにその通りである。

だが、いろいろな色や模様や美しい瞳、愛らしいパーツは猫に専有的なものではなく、これらを有する愛玩動物は猫の他にもたくさんいる(ハムスターしかり、ウサギしかり、犬しかり)。よって、多々いる生き物の中でなぜ猫はかわいのかの答えとしては十分ではない。

## 4. 思考実験 第四段階/これならどうだ!(次なる答え)

では、別な角度から答えを探してみよう。写真にお示したように、我が愛猫(初代)はアメリカンショートヘア、血統書つき純血種である。血統書には、どんな血筋のどんな被毛の、どんな瞳の色をした猫が連なつて我が愛猫が生まれたのか、その系譜が記録されている。さらによく見ると、キヤットショーでグランドチャンピオンに選ばれたご先祖猫がいることもわかる。美しく健康な気立てのよい猫に与えられるのがグランドチャンピオンの称号であるからして、そのグランドチャンピオンの形質を受け継ぐ猫ならばきつとかわい成分が詰まっているに違いない(!!)よって、「なぜ猫はかわいのか?」の問いに対して新たな答え、「優れた形質をもっているからbly血統書」が導かれる(!!)

## 5. 思考実験 第五段階/それって本当?(さらなる突っ込み)

さて、血統書という証拠に基づいて導き出されたこの答えは、「なぜ猫はかわいのか?」との問いに対して十分といえるだろうか。

そもそも純血種とは何か、そして、純血種に付与される血統書とは何かを知つていくと、この答えは、立てた問いに対する一面的な回答にすぎないことがわかつてくる。



めなおし、自分自身を成長させるきつかけとなる。それだけではなく、時には自分が根本的に変わるかもしれない体験となることだってありうるだろう。これからの4年間で、多くの他者と出会い、怖れることなく柔軟な心で他者と対話することを学んでいってほしい。

### (5) インターネットでの出会い

さらに「他者との出会い」は、こうした直接的なものに限定されない。本を読むことも、他者と出会い、対話することだ。本を読むとき私たちは、何百年も前に遠い異国に生きた「他者」の言葉に耳を傾けることもできるのだ。あるいはインターネットにアクセスすることも、他者と出会うことだ。ネットは世界に向かって開かれた窓だ。それはこれまでとは比較にならないほど多くの他者と私たちを結び合わせる。

しかしインターネットとの付き合い方には少し心構えが必要だ。たとえば、みなさんの中でもかなりの数の人がTwitterをやっていると思う。一人のつぶやきが瞬時に世界の人に届けられる、実に魅力的なメディアだ。でもTwitterでのフォロー・フォローとのやりとりで獲得される知見、あるいはTLに流れてくる情報は、ややもすると自分と同種の意見、自分と似た人々の考えである場合が多い。ネットでの検索も同様だ。探そうとする情報はすでに手に入るが、「探そう」とは思っていないかったもの、自分がまったく思いつきもしなかったもの、全く未知のものに偶然に出会う「チャンスはあまり提供されないかもしれない」。

インターネットは魔法の杖のようなものだ。私自身もそれなしではもはや一日だってや

つていけない。でもときどきは魔法の杖なしで動いてみることも必要だ。インターネットは世界に開かれた窓だが、その窓から見える景色が世界のすべてではないことも頭の隅に入れておいてほしい。

### (6) 「旅は出会いである。人は偶然の出会いを求めて汽車に乗る。」

#### (寺山修司)

大学は旅に似ていると私は思う。人は自分で行きたい土地を決めて、地図や羅針盤やガイドブック・辞書を携えて旅をし、多くの他者に出会って成長していく。地図や羅針盤やガイドブック・辞書は、大学でみなさんが学問研究に必要なスキルとして習得する学問的知見や実験手法・外国語能力にあたるだろう。しかし旅を続けていくために一番必要なもの、好奇心と柔軟な開かれた心は皆さんが自らの内に自分の力で育まねばならない。

旅に出る人にかける言葉がある。これから大学生活という名の旅に出発するみなさんに最後にその言葉を贈りたい。

英語でHave a nice trip! ドイツ語でGute Reise! フランスでBon Voyage!

### 三上雅子(みかみまさこ)

1967年生まれ

1980年 大阪大学大学院文学研究科独文学専攻後期博士課程 単位取得満期退学  
2005年 博士(文学)の学位取得(大阪大学)  
現在、文学研究科言語文化専攻表現文化学専攻 教授

専攻分野/20世紀演劇 比較演劇  
全学共通教育の担当科目/ドイツ語、文学と芸術へのいざない、「西洋文学の世界」



純血種とは、人によって定められた一定の基準に合致するさまざまな特性を、遺伝的に固定された種である。純血種は、首のラインの本数、尾のリングの本数、身体のパランス、模様、瞳の色と形等々、この猫種はかくかくしかじかであることが望ましいとされた形質を、他の種を交わらせず受け継がせていくことによって保持される。特定の猫種についての血統書は、その猫種に限って言えば、人が定めた基準に照らしてのかわいさを示す証拠になるかもしれない。しかしやはり、猫という生き物がなぜかわいのかを直接証明するものではない。

何より血統書は、かわいさの証明よりもはるかに大切な意義をもっている。それは優れた遺伝要素をもつ純血種猫を欲しがらぬあまりに無謀で危険な交配が行われることのないよう、繁殖を管理するための資料としての意義である。このように血統書について突き詰めていくと、それが単なる血筋品評書にあらず、大切な意義を持っていることが新たにわかってくる。

### 6. 行動を伴う思考力の確立へ

立てた問いに対する答えが、一発ですっきり決まることは稀である。そして、このすっきりしなさこそが、知的好奇心とチャレンジ精神を掻き立てる。かくして、立てた問いに対する答えと突っ込みは延々と続いていくのであるが、そろそろ字数も尽きてきた。まとめに入ろう。

問いを立て、考え、答えを探す行動を自ら起こすと、私たちは、素人的に漠然ととらえていたイメージを超え、理解できるものこの範囲を広げることができる。理解できる範囲が広がれば、立てることのできる問いの次元とバリエーションも広がっていく。同時に、まだ十分ではない点、すなわ

ち己の思考力の限界と課題も見えてくる。ではその限界をどう超えるか? 課題をいかに解決するか? 試行錯誤にかかる時間を無駄と切り捨てず、自ら立てた問いへの答えを見出すプロセスを丁寧に繰り返していく経験が、不確実な社会を生き抜く底力を育む。

今回はたまたま私の個人的な趣味(?)で「なぜ猫はかわいいのか?」との問いを例示したわけだが、「なぜ」は「なのか?」の「や」に入るからは何でもよい。学術的な問いはもちろんなこと、社会人になつてからも、専門分野を問わず普遍的に活用することが可能だ。

断言しよう。問いを見出し、その問いへの答えを掘り下げるスキルがどこまで育つかすなわち、行動を伴う思考力をどこまで培うことができるかは、あなたが大学で何をするか次第で決まる。

……などともっともらしいことを書いている私の本性はといえば、猫をテーマに文章を書いてみたのよと話しかけながら日向で丸くなって寝ている愛猫(二代目)ににじり寄っては飼い主ウザいとキレのいい猫パンチを食らう猫マニアであったりする。

### 渡邊 席子(わたなべよりこ)

1971年生まれ

2000年、北海道大学大学院文学研究科博士(行動科学)  
現在、大学教育研究センター准教授  
専攻分野/社会心理学  
+ JCD A (Japan Career Development Association) 認定 JCD A (キャリア・デベロップメント・アドバイザー)

全学共通教育の担当科目/「初年次セミナー」、「対人行動の影響と意味」、「ゲームで学ぶ社会行動」、「日常の中の不思議を探る」演習